



### ① 府中町立府中小学校

総合的な学習の時間「未来に向かって」(第6学年)

志の教育の一環として、自らの生き方や行動について考える単元を設定した。

多業種に従事している方へのインタビュー活動を通して、それぞれの業種の仕事内容や働く人々の思い、働くことの意義について理解し、働く上で大切なことは何かを考えた。

志の教育の中間発表として、偉人調べやゲストティーチャーの講話、読書、これまでの経験、夏休みの自主勉強(自分について考える)等の中から、生きていく上で大切にしたいことについてスライドにまとめ、友達や保護者の前で発表した。最終的には、自分の志について卒業論文を作成する。



### ② 府中町立府中東小学校

生活科「生きものなかよし 大きくせん」(第2学年)

「動物を探したり、飼育したりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、それらが成長していることや、生命をもっていることなどに気付くとともに、動物への親しみをもって、生き物を大切にしようとする事ができる。」ことを目標で行う単元を設定した。

実際に普段から親しんでいる場所を探検して行き新しい発見をしたり、友達から教えてもらったりして生き物を探すことができた。

また、生き物を飼育する中で分からないことがあった時に詳しい人に尋ねたいと、広島市森林公園の方に手紙で質問した。その回答が命の循環についてや図鑑等には掲載されていないことが書かれていたため、何度も何度も読み返し、それを実践しようとして工夫していた。

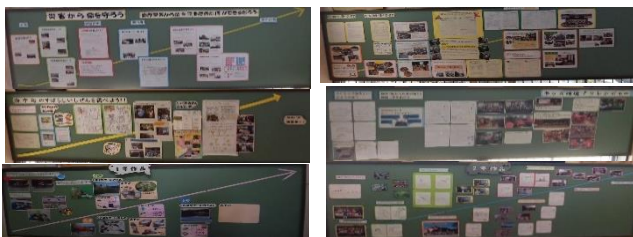


### ③ 府中町立府中北小学校

総合的な学習の時間「避難所の生活について考えよう」第5学年

避難所での生活では、たくさんの物資が不足することを知り、自分達でも簡単に作ることができ、材料も手に入りやすい物を手作りしてみることにした。

小さい子のストレスをなくしたり、大人の人の活動のさまたげにならないようにしたりするため自分たちができることを考えた。



### ④ 府中町立府中中学校

探究・志：生き方探究プロジェクト「未来を見つめる」(第2学年)

本質的な問いを「変化が激しい社会を生き抜くためにどのような自分の将来像を描かばよいのだろうか」とし、それに向かって単元を貫く問いを「自分にとってより良い生き方とはどんな生き方なのだろうか」とした。

とした。

まず、自分はどうのような人間なのかを分析し、これから生きていくsociety5.0の時代の仕事について情報収集を行った。そして、より良い生き方とはどのようなものか考え、提案する内容を創造していった。考えた生き方を「より良い生き方コンテスト」として発表し、代表者は、リーダーが選んで交渉した講師の方を招いて実施した「グランプリ大会」で発表した。その後講師の方々とより良い生き方を考える座談会も実施した。仲間の発表や座談会の内容も参考にして自分にとってのより良い生き方3カ条を考えた。



#### 【個に応じた指導の充実】

ICT機器を活用し、ジャムボードなどで意見を共有しながら進めるようにしたことで、全員が取り組めるよう工夫した。

## 4 研究の成果と課題等

### (1) 成果

小学校、中学校共に成果指標に関わる数値は上昇している。これは、児童生徒が「自分自身が行動しないと何も変わらない」「方法一つでよい」「今まで考えたことがなかった自分のことや地域のことを深く考えられた」などとして探究する場面があったからだと考えている。

また、次のような姿が見て取れた。

- ・探究を繰り返し、自分だけの答えを見つけ出す面白さを味わっていた。
- ・教科横断的にとらえ、どの教科でも生き方や自分の大切な考えにつながりそうなことを発見したり、友だちと共有したりしていた。
- ・自分たちができることをより深く、具体的に考えることができた。

### (2) 課題

#### ① 中学校区としての全体構画の整理

9年間を見通した学びとなるように、中学校区として単元と学習内容を整理した総合的な学習の時間の全体構画が必要であることが明らかになった。

#### ② 児童・生徒による主体的な自力探究

教師が道筋をつけてしまいがちとなり、児童・生徒自ら課題を自力で探究する主体的な学習活動としては不十分だった。

#### ③ 評価の充実

単元を貫く問いに向かって効果的に学習を進めるためには、めざす資質・能力をベースとして学年ごとに単元別のルーブリックを作成し、それに基づいて単元構想を行う必要があることが明らかになった。

### (3) 今後の改善方策等

#### ① 単元の改善及び新規の単元の開発

今年度実施した振り返りから、単元の内容の改善を図るとともに、さらなる単元の開発を行っていく。

#### ② 資質・能力をベースとした単元ごとのルーブリックの作成

ルーブリックを作成することにより、見通しを持って進めることができると同様に児童生徒の成長をはっきりとみとることができるようになり、本質的な問いの設定を含めた単元開発をより効果的に進めるようになることを考える。

#### ③ 通言の作成やHPの充実

取り組み内容をさらに周知させたい。